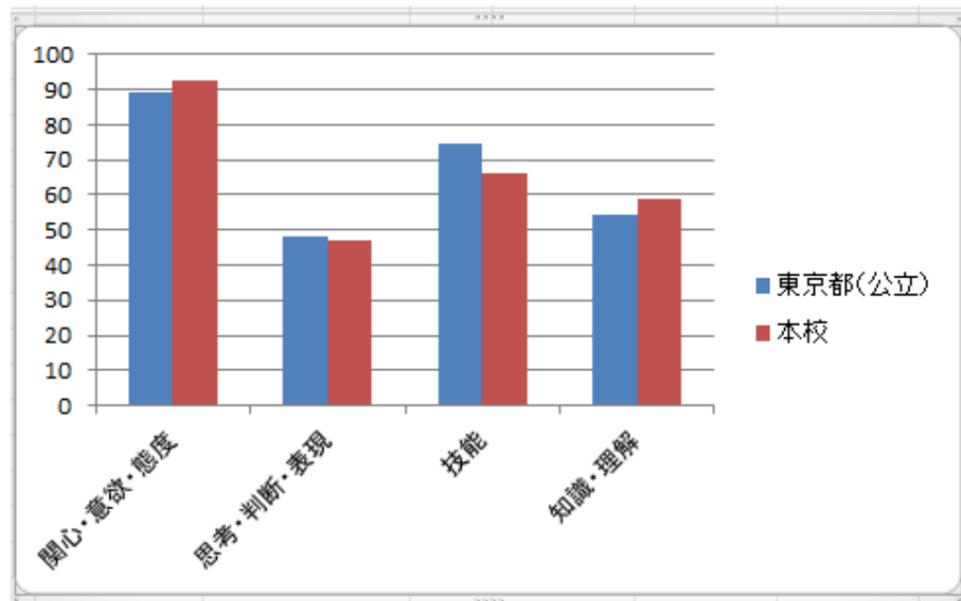


理科（児童・生徒の学力向上を図るための調査）

1 観点別の正答率についての分析

(1)理科A：教科の内容



- ① 関心・意欲・態度と知識・理解については、東京都の正答率を上回った。
- ② 思考・判断・表現と技能については、東京都の正答率を下回った。

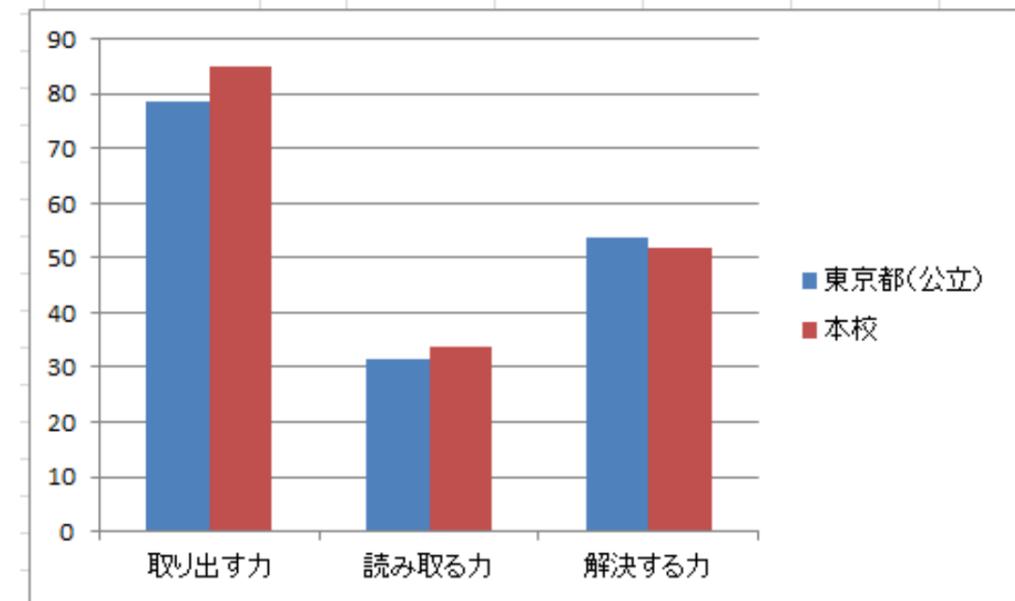
結果からの考察

「関心・意欲・態度」に関する問題の正答率が 92.3%と高数値を示した。日頃の授業で視聴覚教材を使用していることで、実験では感じることでできない興味を引き出せたからであると考えられる。その結果、知識・理解も東京都の平均を 4%上回ったことにつながっている。

思考・判断・表現は東京都の平均とほとんど変わらない。

技能について東京都の平均より 10%ほど下回ってしまった。その要因としては、実験で行ったことを理解して取り組めていないことが考えられる。今後の取り組みとして、なぜ実験をするのか、何のための実験なのかを明確にして指導していきたい。

(2)理科B：読み解く力に関する内容



- ① 取り出す力が東京都の平均を大きく上回った。
- ② 読み取る力・解決する力は同水準であった。

結果からの考察

今回の結果からは、読み取る力に課題があることがわかる。問題を読み取って正答ができていて、半分以上を解決に導ける力があるため、その過程である読み取る力をさらにつける必要があると感じた。

2 授業改善のポイント

- (1) 今回の結果を総合的にみると、A：教科の内容と B：読み解く力に関する内容の合計点は、東京都の正答率をわずかではあるが、上回っている。日頃から、理科の日常の現象を意識して授業展開に結びつけていきたい。
- (2) 今後は、資料や考察を多く取り入れ、資料から課題を見だし、自分の考えを書く力の向上を指導できるよう授業展開や方法を考えていきたい。生徒が日常生活の些細な現象に目を向けて取り組めるように指導していきたい。